

コロナウイルス感染症急拡大！ご注意を

先週から、県内の新型コロナウイルス感染症に関する陽性者が急激に増加しています。各家庭でも細心の注意を払っていらっしゃると思います。しかしながら、日々過去最多を更新する勢いで増加しています。重症化するリスクは高くないのではとされていますが、しっかりと証明されているのではないようです。本園でも、先週お知らせしたような状況で心配されましたが、今のところ広がりはないようです。現在、夏風邪や他の感染症、熱中症等も心配される状況です。各家庭でも、子どもの体調に十分留意して下さい。感染症予防には、①手洗い・うがい・消毒、②換気③マスク着用④三密を避ける。等、新しい生活様式の徹底のようです。これから夏休みに入り、多くの方との接点も増えると予想されます。感染に気を付けて、熱や風症状など心配になったら、医療機関を受診するか、発熱外来にご相談し、PCR検査等を受けて下さい。

子ども主体の園行事を考える

～子ども主体のプロジェクト～

私たちは、子ども主体の保育をめざして日々の保育実践を行っています。第一に「学びの重視」です。子どもは自分で好きに遊ぶ遊びを通して、環境に関り、自分の世界を自ら広げていきます。子どもは「やらされて」学ぶのではなく、自らの興味関心を通して自分の世界を広げていくことができます。子どもの「やってみよう」という気持ちが保育の出発点です。

第二に、「一人一人に講じた関わりや配慮」です。子どもは一人一人、個性や発達も異なります。そのため、一人一人に応じた受容的で、応答的なかかわりが重要になります。「わがまま」や「乱暴」「消極的」など見える姿の中にも、その子の思い(主体)が隠されています。その思いに即したかかわりが求められます。そのかかわりから、保育者との関係性を基盤に主体性がより発揮されていきます。

〈大切にしたい考え方〉

- 子どもの主体性を高める
幼児教育
- 興味関心を大きくする環
境構成
- 生活の場としての園生活

ひまわり7
元気な子どもたちとともに
〈教育目標〉
元気で思いやりのある
ひまわりっ子

〈職員目標〉

- チームワーク
- 主体性を育む保
育
- 資質向上

第三に、「子ども相互の育ち合い」です。子どもは保育者の存在に加え、友達の姿を通して、それをなねたり、刺激を受けたりして自分の世界を広げていきます。それが育ち合いです。運動遊びが苦手な子どもも、魅力的に行っている友達の姿を見て、自分もやってみようという思いが生まれたりします。相互性を通じた主体性の発揮です。このように主体的保育の実践を保育者同士で語り合いながらより良くなるよう日々努力しています。これまで集団画一型の保育が一般化する中で、「21世紀型保育」に求められるのは、主体的で、対話的で、深い学びです。このことは小学校以降も同じような教育実践が行われ、よく耳にする「アクティブラーニング」等がそれにあたります。本園でも、「子どもたちにとって」という視点を大切に、園内で保育者同士が語り合い、できることから始めています。今回「夏祭り」を通して、子ども主体の園行事への

取り組みを行いましたので紹介します。紹介が途中になりますので、次回号に続きます。21世紀型モデルになるよう、子どもたちが主体的に関わり、仲間と対話を深め、その取り組みの中から、一人一人の学びが深くなることを大切にしました。まずは、年間行事を子ども一人一人がイメージしやすくなるよう、ホワイトボードを活用し、自分たちで協力して工夫していくこととする意欲を高めることで主体的に参加できることから始めました。

